

林退共に関するコメント状況

○適切に行われていると評価できる趣旨のコメント
 △事前回答により了解が得られたコメント
 ▲今後の具体的な検討が求められているコメント及び事前回答に了解を得られていないもの

資料 1 - 6

[] 内は、対応する基本方針の項目を示す。

番号	評価項目	各委員のコメント状況					検討課題
		村山	吉國	米澤	小粥	奥村	
1	<p>[I - 1 ~ 3] 【資料 7 P1.~】</p> <p>○ 運用の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本原則、運用の目的に基づき、運用の目標の達成に向けた運用の遂行が市場の状況を踏まえてなされているか 	△	△	○	○	○	<p><村山委員></p> <p>● <実績> ③外国債券がベンチマークをやや下回った理由として、「ユーロ圏周辺国の回復に追随できなかった」とのことであるが、ユーロ圏周辺国とはどこか。回復に追随するとはどういうことか。</p> <p>(回答)</p> <p>2009年、ギリシャで大幅な財政赤字が発覚したギリシャ危機を発端に、ポルトガル、アイルランド、イタリア、ギリシャ、スペインのいわゆる PIIGS 諸国と呼ばれるユーロ圏周辺国の脆弱な財政問題が顕在化し、これらの国債金利が急騰し欧州全体の金融システムを揺るがしました。この「欧州債務危機」によりユーロ圏周辺国の国債を保有していた多くの外国債券ファンドのパフォーマンスは悪影響を受け、リスクオフにより、これらの国債をアンダーウエイトとしました。その後、欧州金融当局の金融政策もあり、ユーロ圏周辺国の国債金利も落ち着きを見せはじめ、さらにその後に急回復（金利低下）する結果となりますが、依然、リスクオフ姿勢も強かったことで、一部運用機関では、これらの国債の保有（買戻し）について慎重な姿勢を維持しアンダーウエイトを継続しました。この結果、市場の急速なリバウンド局面に追随できず、機会損失を招きベンチマークを下回りました。</p> <p><吉國委員></p> <p>●委託運用においてベンチマークを上回る収益を上げたことを主因に、引き続き利益を計上しており、市場の状況を踏まえて適切な運用が行われていると評価できる。この間、累積欠損金については、順調に減少しているものの、平成 34 年度の解消年限を踏まえて早期解消に向けて引き続き努力することが期待される。</p> <p>(回答)</p> <p>累積欠損金につきましては、今後とも着実な累損解消に努めてまいりたいと考えております。</p>
2	<p>[I - 4] 【資料 7 P6.~】</p> <p>○ 基本ポートフォリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本ポートフォリオに基づく資産配分がなされているか 基本ポートフォリオの検証が適切になされているか 	○	△	△	△	○	<p><吉國委員></p> <p>●期中に乖離許容幅を超過するケースはなく、基本方針に沿った運用が行われたと判断できる。ただ、デフレ脱却に伴う運用環境の変化を展望すると、今後共、基本ポートフォリオについて不断の見直しを行って頂きたい。</p> <p>(回答)</p> <p>林退共においては、平成 26 年度が、中退法第 8 5 条に定める掛金及び退職金等の額の検討の時期に当たり、国による財政検証が行われます。したがって、基本ポートフォリオの</p>

						見直し等についても検討する予定です。 <米澤委員> ●評価できる。ただし、デフレ脱却の次に生じうるのは金利の上昇であろう。この点を考慮して基本ポートフォリオの再検討も必要と思われる。またあえて外国債券を保有する意義は何か。 <u>(回答)</u> 林退共においては、平成26年度が、中退法第85条に定める掛金及び退職金等の額の検討の時期に当たり、国による財政検証が行われます。したがって、基本ポートフォリオの見直し等についても検討する予定です。 <小粥委員> ●欠損金がある場合、基本ポートフォリオにおける期待収益率（及びリスク）をどのように決めたのかご教示いただきたい。 <u>(回答)</u> 平成17年度策定の累積欠損金解消計画に基づき、予定運用利回り0.7%に加えて、平成34年度までに解消すべき累積欠損金の額を目安額に相当する収益から期待収益率（及びリスク）を決めています。 林退共においては、平成26年度が、中退法第85条に定める掛金及び退職金等の額の検討の時期に当たり、国による財政検証が行われます。したがって、基本ポートフォリオの見直しについても検討する予定です。	
3	〔Ⅰ－6〕【資料7 P8.~】 ○ 情報公開 ・資産運用に関する情報公開が十分に行われているか	△	○	○	○	○	<村山委員> ●「財務に関する情報」について、「林退共事業等勘定給付経理の平成24年度の貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書等を公開している。」としてはどうか。 <u>(回答)</u> 「林退共事業等勘定の平成24年度の貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書等を公開している。」に修正します。
4	〔Ⅱ〕【資料7 P10.~】 ○ 自家運用の遂行 ・基本方針に定める基本的投資スタンスが遵守されているか ・リスク管理が適正になされているか	○	○	○	○	○	
5	〔Ⅲ－1〕【資料7 P12.~】 ○ 委託運用（金銭信託） ・受託機関の選定・評価が基本方針に定めた基本に基づき適切に行われているか ・受託機関のシェア変更が基本方針に定めた基本に基づ	△	○	○	○	○	<村山委員> ●受託運用機関とのミーティングは規則上、原則として四半期毎開催するとあるが、平成25年度は3回しか行われていない。問題ないか。 <u>(回答)</u> 第1四半期末と第3四半期末の特退共のミーティングは、資産別に一定水準以下（内外

	き適切に行われているか ・受託機関の資産管理・運用状況の把握が適切になされているか						債券は対ベンチマーク比0.3%を超えるアンダーパフォーマンス、内外株式は同1.0%)に絞り込んで実施しています。第1四半期末はこの水準をクリアしていたことから四半期ごとの報告書の提出のみでミーティングは行いませんでした。なお、毎月、運用委託先から運用状況の報告のため運用調査役との面談を実施しています。
6	〔Ⅲ－2〕【資料7 P15.~】 ○金銭信託以外の委託運用（生命保険資産） ・受託機関の選定・評価が基本方針に定めた基本に基づき適切に行われているか ・受託機関のシェア変更が基本方針に定めた基本に基づき適切に行われているか ・受託機関の資産管理・運用状況の把握が適切になされているか	—	—	—	—	—	
7	〔Ⅳ〕【資料7 P16.~】 ○（有価証券信託） ・受託機関の選定・評価が基本方針に定めた基本に基づき適切に行われているか ・評価に基づき適切に払戻が行われているか ・受託機関の資産管理・運用状況の把握が適切になされているか	—	—	—	—	—	
8	〔Ⅳ〕【資料7 P17.~】 ○運用管理体制 ・運用体制の整備・充実がなされているか ・資産運用委員会等の運営が適切になされているか	○	△	○	○	○	<吉國委員> ●運用体制の整備・充実については、適切になされていると判断される。今後については、「公的・準公的資金の運用・リスク管理等の高度化等に関する有識者会議」の提言に対する機構としての対応方針を確定し、それを踏まえた説明が求められよう。 <u>(回答)</u> 市場の環境変化があるなかで、林退共制度に適した運用が行えるよう、検討していきます。